

# 大津市MICE推進戦略



令和4年3月

大津市



# 目次

## 第1章 戦略策定の意義

- 1 策定にあたって ..... 2
- 2 MICE とは ..... 4
- 3 MICE 推進の意義と効果 ..... 5

## 第2章 現状と課題

- 1 MICE の市場動向 ..... 8
- 2 大津市の現状と課題 ..... 12

## 第3章 MICE 推進の方向性

- 1 大津が目指すまちと MICE の関係 ..... 16
- 2 大津ならではの MICE 誘致の方向性 ..... 18
- 3 ターゲットとする MICE ..... 19
- 4 MICE 戦略における目標 ..... 21
- 5 大津市 MICE 推進の基本方針 ..... 22

## 第4章 具体的な施策・取組み

- 1 基本方針1  
主催者にえられる MICE 都市「大津」となるために ..... 24
- 2 基本方針2  
関連事業者と共に創り、磨き上げる MICE 都市「大津」となるために ..... 28
- 3 基本方針3  
人がつながり、成長する MICE 都市「大津」となるために ..... 30

## 第5章 戦略の推進

- 1 大津市の MICE 推進体制 ..... 32

## 資料編

- 用語集 ..... 34

# 第1章 戦略策定の意義

## 1 策定にあたって

### (1) 目的

国においては、「日本再興戦略－JAPAN is BACK－」で「多くの人や優れた知見、投資を呼び込み、2030年には アジア No.1の国際会議開催国として不動の地位を築く」という目標を掲げ、その実現のための重要なツールとして MICE を位置づけました。また、観光立国実現に向けて、「明日の日本を支える観光ビジョン」を定め、インバウンドを中心とした積極的な観光政策を推進しています。その中で、MICE においては、新規市場開拓と長期滞在・消費拡大を実現するために誘致すべきものと位置づけられ、誘致促進を積極的に取り組むことが示されています。

本市においても、「大津市総合計画第2期実行計画」に基づき、「夢があふれるまち大津」を実現するため、びわ湖畔に位置する施設等のコンベンション機能を生かした国際会議や全国大会等の誘致を推進する取組みを実施しています。

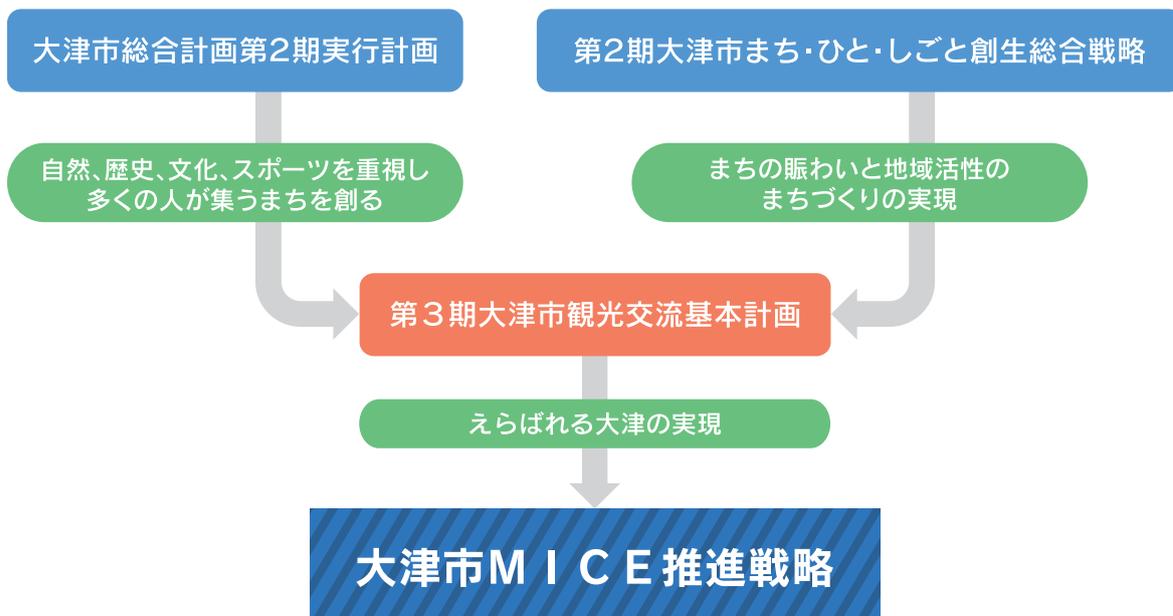
「大津市 MICE 推進戦略（以下「本戦略」という。）」については、「大津ならではの魅力」や立地を生かし、さらに MICE 誘致を推進することで、国内外からの誘客促進とまちのにぎわい創出を図るとともに、地域経済の活性化や都市の魅力を向上させることを目的として策定しました。

## (2) 位置づけ

本戦略は、「大津市総合計画第2期実行計画」の基本方針にある「自然、歴史、文化、スポーツを重視し、多くの人が集うまちを創ります」及び「第2期大津市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本目標にある「まちの賑わいと地域活性のまちづくり」を実現するための戦略として位置づけます。

また、本市観光振興の基本計画である「第3期大津市観光交流基本計画（以下「第3期観光計画」という。）」に掲げる目指す姿である「えらばれる大津」となれるよう、MICE分野における基本戦略としても位置づけます。

なお、MICE推進においては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受けやすいことから、社会情勢や開催状況を見極め、MICEを取り巻く環境の変化に応じた取組みを進めていきます。



## (3) 対象期間

本戦略の対象期間は、令和4年度から令和7年度までの4年間とします。

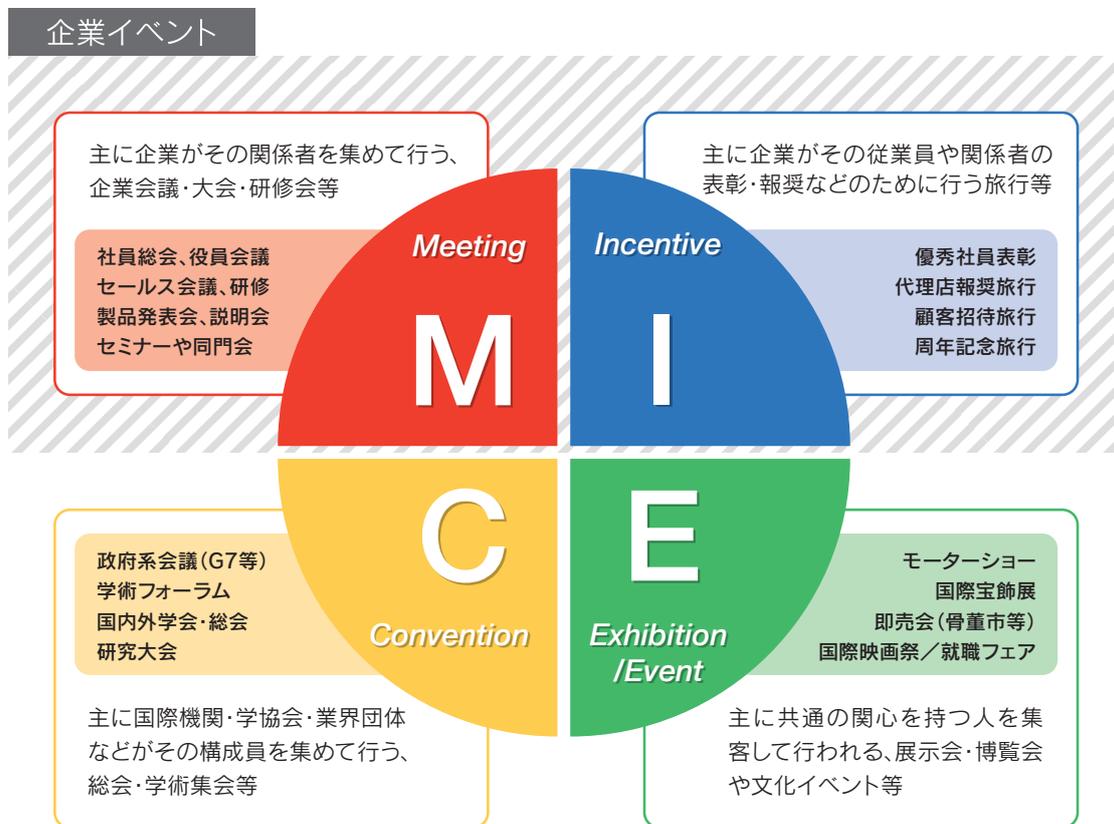
なお、上位計画である第3期観光計画と同期間を対象とし、本戦略は第3期観光計画との関係性を考慮して取組みを推進していきます。

また、この期間は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により制限された人と人との往来が、徐々に回復していくと予想される期間であることから、MICE市場においても、新たなニーズ、いわゆる「ニューノーマル」への対応も重要視しながら、社会情勢の変化に応じた取組みを進めていきます。

## 2 MICE とは

MICE とは、主に企業が行う会議（Meeting）、報奨・研修旅行（Incentive）、国際機関・団体、学会・協会等が行う総会や学術集会・大会（Convention）及び展示会・見本市、イベント（Exhibition / Event）の頭文字をとったものであり、これらの「ビジネスイベント」の総称です。

本戦略では、M 及び I については、主に企業が実施するイベント「企業イベント」として、一つの括りとして整理します。



出所：観光庁 Web サイトを元に作成

### 3 MICE 推進の意義と効果

MICE は、一般的な観光の効果に比べて様々な部分で高い開催効果があり、国内外の多くの都市が積極的な誘致を行い、開催効果を楽しんでいます。

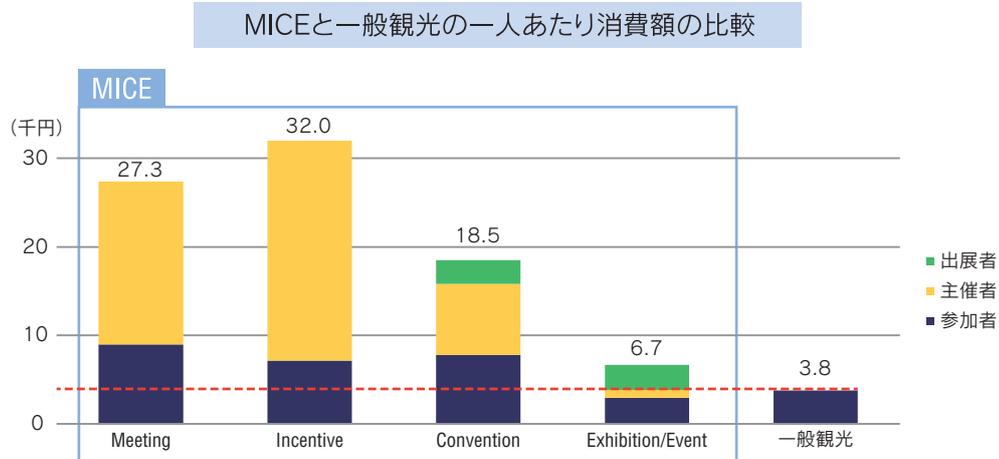
#### (1) ビジネス・イノベーションの機会の創造

MICE を通じて、国内外から各分野の最先端の人材が開催都市に集います。そこに開催都市における産業界や経済界、研究者などが加わることで、開催都市での新しいビジネスやイノベーションの創出につながります。



#### (2) 地域への経済効果

MICE の主催者や参加者などによる消費は、地域に大きな経済効果をもたらします。滞在期間が長期にわたることや比較的グレードの高い施設の利用が多いこと、主催者の費用負担が大きいこと、幅広い分野での消費を生み出すことなど、様々な要因により、一般観光と比較すると高い経済効果が期待できます。



※Incentive（報奨・研修旅行）は調査対象が全て外国人参加者である。その他は日本人も含む。  
 ※一般観光全体の消費額は、日本人と外国人の消費額合計を総旅行者数で除して算出。

出所：観光庁 平成29年度 MICE の経済波及効果算出等事業報告書、観光庁 旅行・観光消費動向調査平成29年年間値（確報）  
 観光庁 訪日外国人の消費動向平成29年年次報告書より作成

### (3) 都市の競争力向上

MICE には開催都市の国際競争力を向上させる効果があります。例えば、2008年に開催された G 8 北海道洞爺湖サミット（第34回主要国首脳会議）や2016年に開催された G 7 伊勢志摩サミット（第42回先進国首脳会議）の開催都市は、世界中にその都市名が報道されることで、国際的な知名度が飛躍的に向上しました。その他、スイスのダボスは、世界経済フォーラム（通称：ダボス会議）が開催されたことで、世界中の多くの人々が知る国際都市へと変貌を遂げました。このように MICE が開催されることで、都市の知名度が向上し、国際的な競争力が高まります。

また、最先端の研究者など、その分野の第一人者が集結する MICE が開催されると、普段であれば構築できない新たなネットワーキングが可能となり、自都市の産業が活性化され、都市の経済力や産業力が高まり、競争力の向上につながります。



大津市街地



なぎさ公園

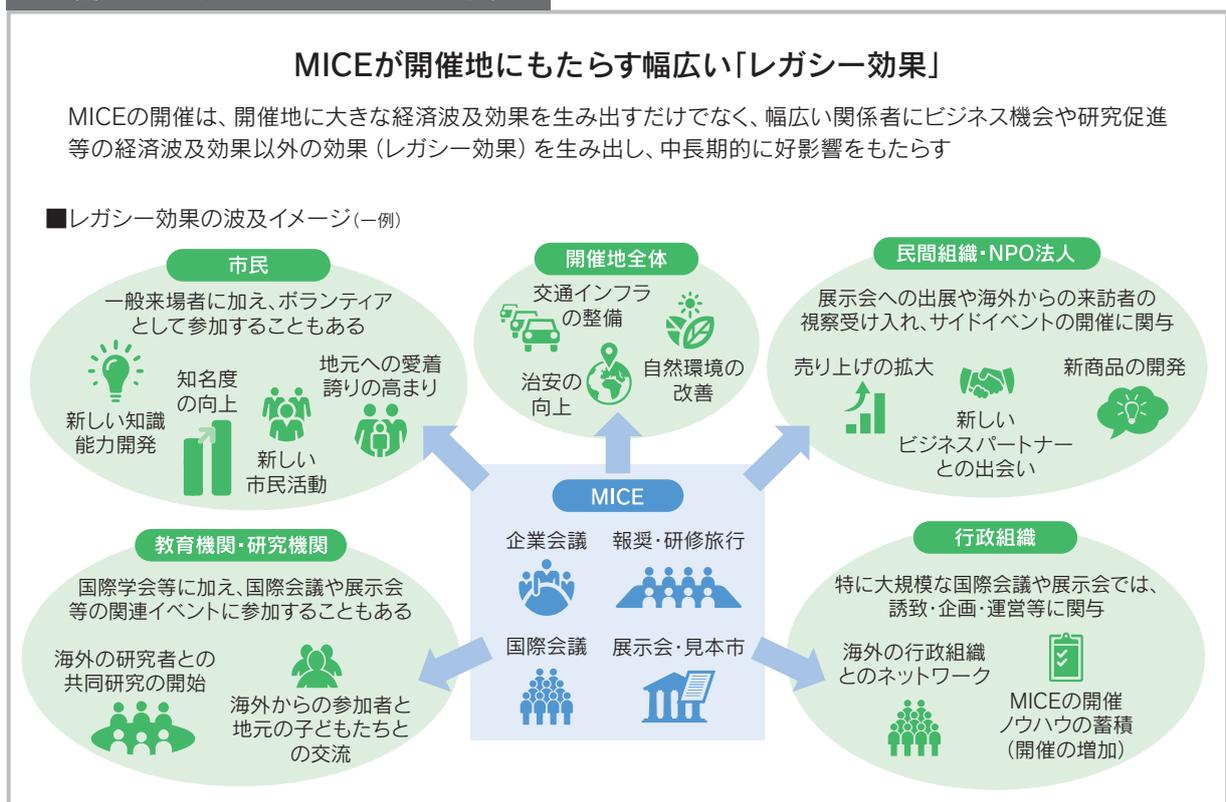
## (4) レガシー効果

これらの3つの効果以外にも、MICEには様々な「レガシー効果」があります。市民生活や教育への好影響や地域産業の活性化、インフラの整備など、MICE開催によって都市は様々な効果を得ることができます。

例えば、国際会議ではノーベル賞受賞者のような著名な研究者と開催地の小学生が交流するような企画を実施することがあります。研究者にとっては、自身の研究分野に対する理解の促進と後進の育成につながる貴重な機会であり、開催地にとっても、著名な研究者との交流を通して、子どもたちの将来の可能性を広げる貴重な場になるとともに、地域の教育や研究において波及的に好影響を与える機会ともなります。

地域全体でMICEを迎え、MICEに関わることで、こうした様々なレガシー効果を取り込み、地域の発展につなげることができます。

### 一目でわかるMICEのレガシー効果



出所：観光庁「MICEによるレガシー効果等調査事業 レガシー効果事例集」を元に作成

## 第2章 現状と課題

### 1 MICE の市場動向

MICE 市場は、世界的に安定した成長が見込まれている分野の一つであり、グローバル化や経済成長の流れに伴いその役割は年々高まってきましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、MICE は中止や延期などを余儀なくされ、大きな影響を受けました。しかし、様々な開催方法により感染拡大に配慮しながら、既に多くの MICE がオンライン開催やオンラインと実地（リアル）開催を併用したハイブリッド開催などにより再開されています。

今後は、このような MICE 市場の環境の変化を把握し、柔軟に対応しながら、MICE 誘致を推進していく必要があります。

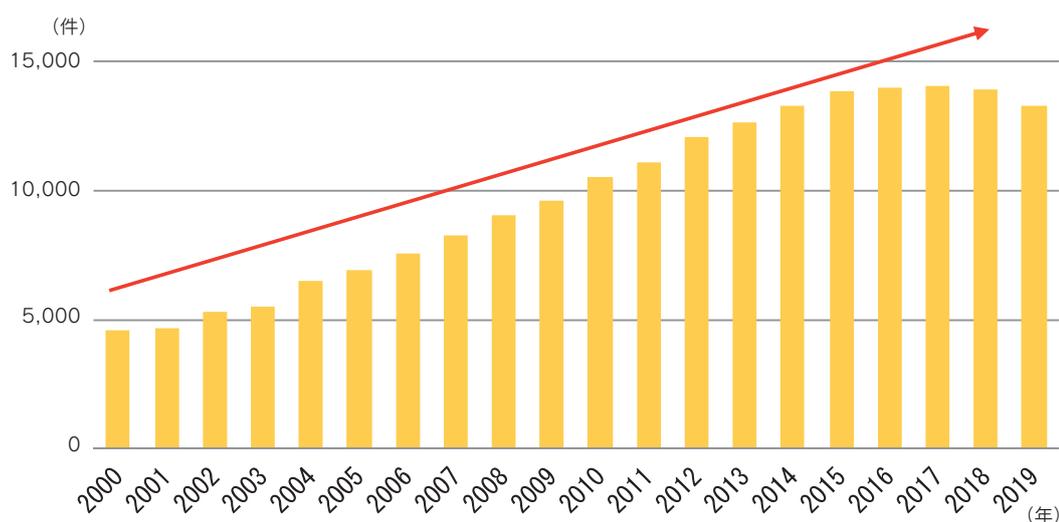
#### (1) 世界の MICE の動向

##### ① コンベンション（国際会議）

世界の国際会議の開催件数は、2000年には約4,500件でしたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が始まる前の2019年には13,000件を超え、およそ3倍に増加しました。

国際会議の開催需要は年々増加しており、多くの都市が積極的な誘致を行っています。

世界全体の国際会議の開催件数



※国際会議協会のデータベースは、随時更新・登録・精査されるため、過去3年程度は実際より少ない値を示します。そのため、2018年、2019年については、現時点では減少を示していますが、実際には増加していると考えられます。

出所：国際会議協会（ICCA）データベースより作成

## ②企業イベント

企業イベントはプライベートイベントであることから、その性質上、明確な市場動向の把握は難しくなっていますが、旅行会社やミーティングプランナーなどの企業イベントを取り扱う事業者を対象に行った調査を基にしたレポートでは、市場は拡大傾向にあることが示されており、経済成長とともに、活発に企業イベントが行われています。

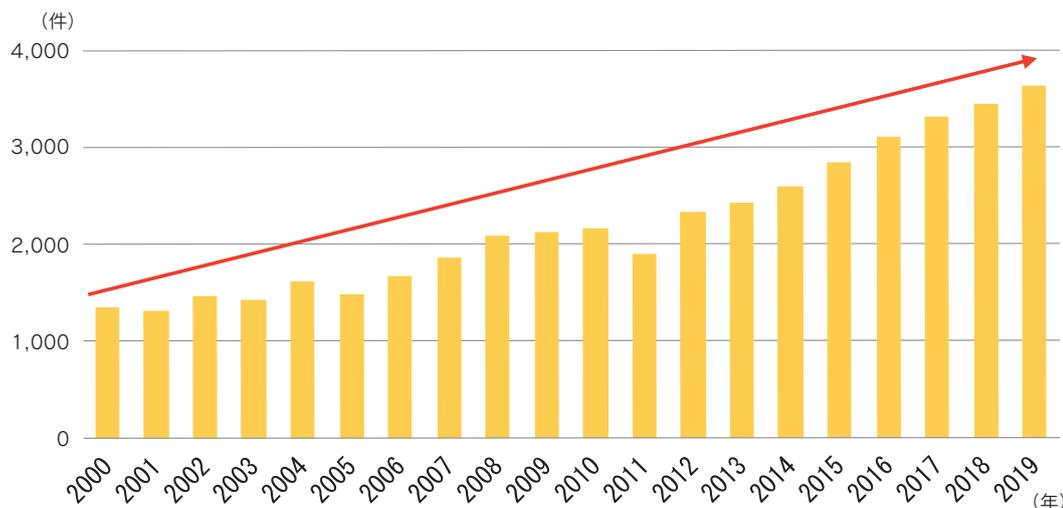
## (2) 日本の MICE の動向

### ①コンベンション（国際会議）

日本の国際会議の開催件数は、2000年には約1,300件でしたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が始まる前の2019年には約3,600件となり、世界の動向と同様におよそ3倍に増加しています。

日本においても国際会議の開催需要は年々増加しており、国内でも多くの都市が積極的に誘致を行い、様々な施策に取り組んでいます。

日本の国際会議の開催件数



出所：日本政府観光局（JNTO）国際会議統計より作成

### ②コンベンション（国内会議）

国内で開催されるコンベンションは対象の幅が広いため、国際会議のような明確な統計はありませんが、日本コンGRESS・コンベンション・ビューロー（JCCB）が国内のコンベンション主催者に行ったアンケート結果によると、2010年に開催されたコンベンションは約3,000件<sup>(※1)</sup>でしたが、2019年には約3,500件<sup>(※2)</sup>にまで増加しています。

このことから、国内で開催されるコンベンションについても、国際会議と同様に、開催件数が増加していることがわかります。

※1 2011年時点の調査データベースに基づく値を使用

※2 2020年時点の調査データベースに基づく値を使用

### ③企業イベント

企業イベントは、世界の動向と同様に、明確な市場動向の把握は難しくなっていますが、国内のいくつかの都市が海外からの企業イベントの誘致成果を公表しています。この結果によると、いずれの都市も誘致実績を増加させており、国内開催の企業イベントの市場が拡大していることがわかります。

### ④ MICE に関する国の政策等

国においては、MICE を観光立国の実現や、海外から多くの人々や優れた知見・投資を呼び込むための重要なツールの一つであると位置づけており、観光庁と日本政府観光局（JNTO）において様々な施策を講じています。

具体的には JNTO が中心となり、国レベルで世界的なプロモーションを展開するとともに、国内のキーパーソンとの協力関係の構築を目的として、MICE アンバサダー制度を導入しています。また、観光庁では、実際の開催地であり誘致主体となる都市の誘致力を強化するため、「グローバル MICE 都市」を選定し、様々な支援を行ってきました。近年は、コンベンションビューロー支援事業として、グローバル MICE 都市に次ぐ都市の育成にも力を注いでいます。

このように、観光庁と JNTO が連携しながら、日本のトータルプロモーションと各種支援で開催都市が積極的に誘致活動を実施できるよう、サポートを行っています。

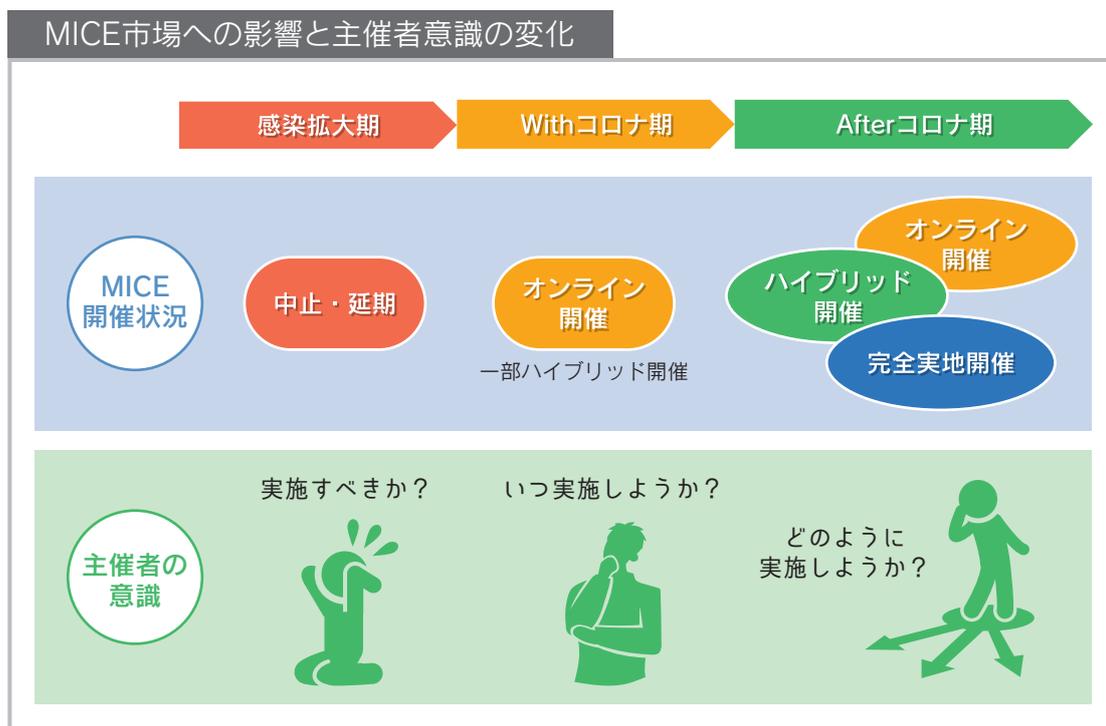
### (3) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大が MICE に与える影響

新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、MICE の開催に大きな影響を与えました。人の移動が制限される中で、多くの MICE が中止・延期を余儀なくされました。国境をまたぐ移動が厳しく制限されたことで、国際的な MICE への影響は特に大きなものとなっています。

しかし、テクノロジーの活用により、オンライン開催やオンラインと実地開催を併用するハイブリッド開催などが行われることで、MICE の開催は回復の兆しを見せており、これまで中止・延期となっていた多くの MICE が再開され始めています。

オンライン開催が普及したことによって、今後は、それぞれの MICE の目的に沿った開催方法が検討されることとなります。主催者は、オンライン開催、ハイブリッド開催、完全実地開催のいずれがその MICE にとって最適な開催方法であるかを検討し、選択することとなります。

また、現時点では各種制限などの兼ね合いから、実地での開催事例は多くありませんが、主催者や参加者の多くが対面でのコミュニケーションの重要性を再認識し始めており、実地での開催・参加への期待を高めています。



## 2 大津市の現状と課題

本市では令和2年度に MICE 推進室を設置し、本格的な MICE 誘致の取組みを開始したところです。今後の MICE 推進へ向けて、本市の現状と課題を整理しました。

### (1) 大津市の MICE の開催状況

#### ① MICE 開催実績

本市と MICE の関係性は古く、滋賀県が提唱し、1984年に本市で第1回目を開催した「世界湖沼会議（開催当時は世界湖沼環境会議）」を始めとして、これまでも国際的に知名度の高いコンベンションが開催されてきました。特に水や環境をテーマとした案件が多く、2003年には琵琶湖・淀川流域を対象として、京都・大阪とともに「第3回世界水フォーラム」が開催されました。

また、令和2年度には、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響によりオンライン開催となりましたが、10,000人程度の参加者が見込まれる大規模な医学系の学会も予定されていました。

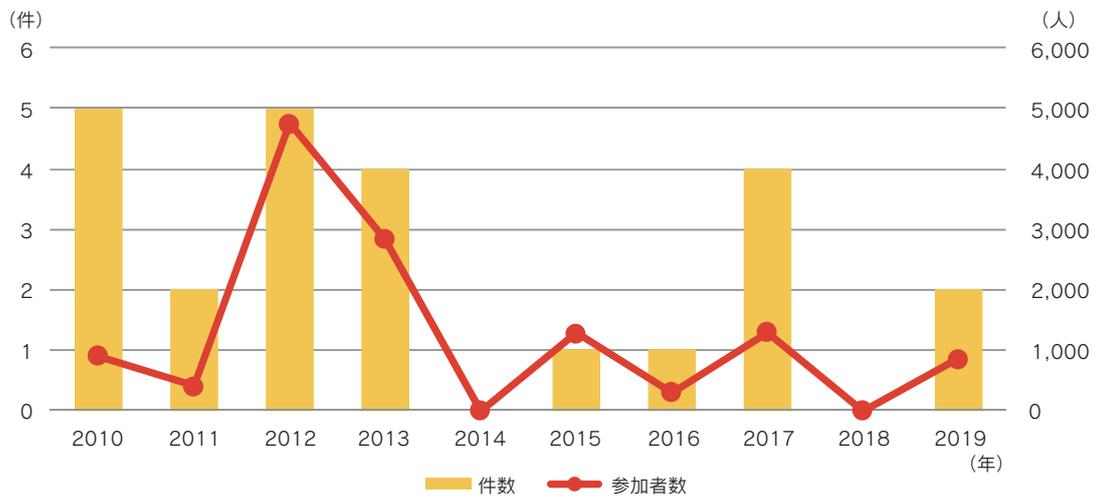
#### ② コンベンションの開催件数と参加者数の推移

本市における近年のコンベンションの開催状況については、国際会議は、年平均で開催件数は2～3件程度、参加者数は1,200人程度で推移しています。国内も含めたコンベンション全般では、年平均で開催件数は25件程度、参加者数は15,000人程度で推移しています。現状、本市での開催状況については、国や世界における開催実績のように、安定した成長曲線は描けておらず、年毎の開催件数や参加者数にもばらつきがある状況です。

本市においては、MICE を開催するための環境やノウハウは十分に有していることから、今後は安定的に開催を積み重ねていけるよう、戦略的な MICE 誘致の取組みを行う必要があります。

そのためには、市内の関連事業者に積極的に関わっていただき、持続的・安定的に MICE が開催されるよう施策に取組み、開催件数を安定させ、成長曲線を描いていくことが重要となります。

### 本市で開催された国際会議の件数と参加者数



出所：日本政府観光局（JNTO）国際会議統計より作成

### (JNTO 国際会議統計における国際会議の定義)

主催者：国際機関、国際団体（各国支部を含む）または、国内機関・国内団体（民間企業以外）  
 参加者数：50人以上 参加国数：3カ国以上 開催期間：1日以上

### びわこビジターズビューローのコンベンション支援件数と参加者数 (本市での開催分)



出所：びわこビジターズビューロー提供資料より作成

## (2) MICE 誘致・開催における大津市の強み

## 都市型レイクフロントの立地環境



本市は都市部でありながら、レイクフロントに立地するという国内でも稀有な環境を有しています。レイクフロントの立地環境を持つ都市は多数ありますが、多くの場合、郊外に位置しています。他の大都市部からのアクセスが良好な点も含め、本市の環境は貴重なものといえます。

MICE 開催にあたっては、一定の都市環境が必要となること、海外参加者を中心にレイクフロントという立地環境が好まれやすいことや国際空港からのアクセスが良好であることを鑑みると、本市の立地環境は MICE 誘致における大きな強みとなります。

## びわ湖に象徴されるサステナブルな都市環境

本市はびわ湖畔に位置することから、従前よりびわ湖の環境を保全するべく、産官学民が一体となって様々な取り組みを行ってきた「環境先進都市」です。SDGs の趣旨にあるように、世界的に持続可能な取り組みが求められる中、これまで当たり前のように取り組んできたことが、本市のブランドイメージや都市魅力、環境分野における立場など、プレゼンスを向上させる大きな鍵となります。



MICE においても、SDGs を意識した取り組みの導入や、開催都市選定基準の一つに持続可能性への取り組み状況が求められるなど、新たな潮流が生まれており、本市の環境に対する意識は大きな強みとなります。

## まち・自然・歴史が共生し育まれた地域資源とおもてなしの心



本市は県庁所在地として、滋賀県を代表する都市です。経済・産業の中心である一方、MICE 開催も可能な歴史あるおごと温泉、びわ湖をはじめ比良比叡や瀬田川などの豊かな自然、戦国時代を中心に長らく歴史の表舞台であったことに由来する多くの史跡や神社仏閣があり、まちと自然と歴史が共生し、多様な地域資源を持つまちです。

また、長い歴史の中で育まれた、おもてなしの心を持つ都市でもあります。

MICE の開催地決定においては、都市の魅力やホスピタリティが大きな意味を持つため、本市のこれらの特徴は、MICE 誘致の大きな強みとなります。

### (3) MICE 誘致・開催における大津市の課題

#### ①誘致の窓口となるワンストップ窓口の不在

これまでは、MICE 開催を検討する主催者にとって、本市における問い合わせ先となる窓口がありませんでした。MICE 誘致に積極的な多くの自治体では、コンベンションビューローなどの窓口組織を設置することで窓口の一本化を行っており、そこで主催者が様々な支援をワンストップで受けられる体制を整備しています。

今後、本市において、積極的に MICE を推進していくためには、滋賀県（びわこビジネスビューロー）と本市における役割分担を整理し、ワンストップ窓口を整備することで主催者に向けた様々な支援を提供できる環境を整えていく必要があります。

#### ②プロモーションの不足

他都市では、積極的な国際展示会への出展、JNTO が行う商談会やキーパーソン招請事業への参加、MICE 専用のプロモーションツールの作成など、積極的な MICE 誘致のため、様々なプロモーション活動を行っています。

本市では令和2年度に MICE 推進室を設置し、本格的な MICE 推進の取組みを始めたところですが、これまでは「MICE」という切り口でのプロモーションツールは存在せず、本市独自のプロモーション活動もほとんど実施できていませんでした。

MICE 主催者と一般観光客では、必要とされる情報が異なることから、効果的な誘致活動を行うためには、MICE 主催者にとって有意な情報を掲載したプロモーションツールを構築するとともに、「大津市」としての独自のプロモーション（誘致）活動を行っていく必要があります。

#### ③市内周遊の不便さなど二次交通の脆弱性

本市のハード面における大きな課題として、ターミナル駅から MICE 開催エリアまでの移動の不便さと市内での周遊がしづらいという点が挙げられます。本市の玄関口である大津駅から MICE 開催エリアまでの距離が離れており、二次交通となる公共交通機関においても、必ずしも利便性が高いとは言えない状況です。また、大規模 MICE 開催時などは複数の会場を利用するケースもありますが、会場間における移動の利便性も高くありません。

多くの参加者が集う MICE の開催においては、交通の利便性は重要な要素であり、MICE 推進のためには、二次交通の改善への取組みが必要となります。

#### ④コアとなる公共 MICE 施設の不在

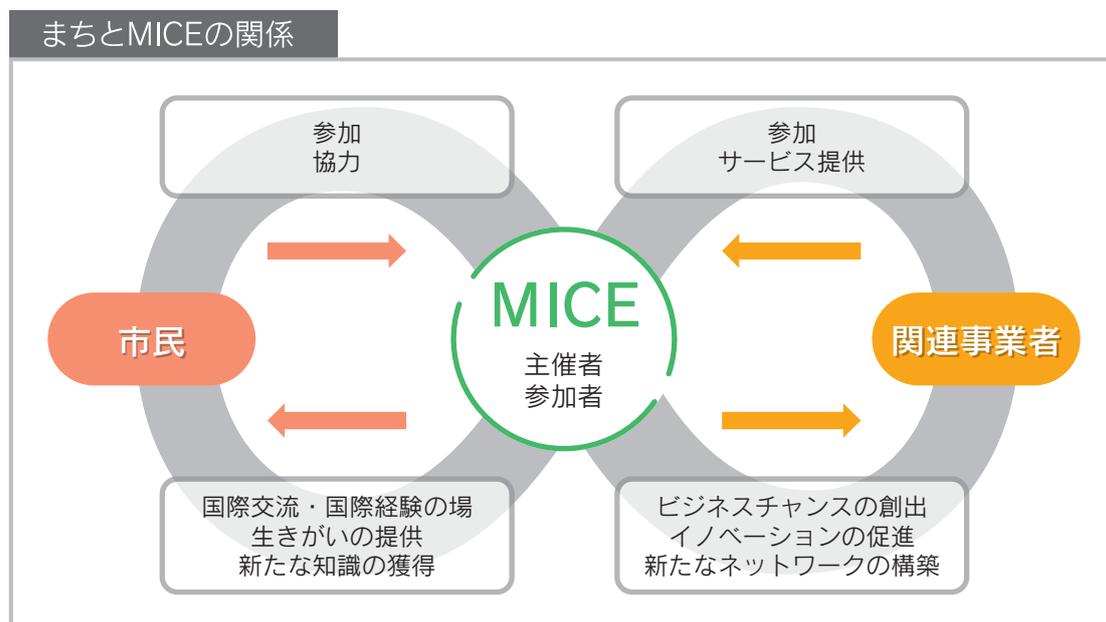
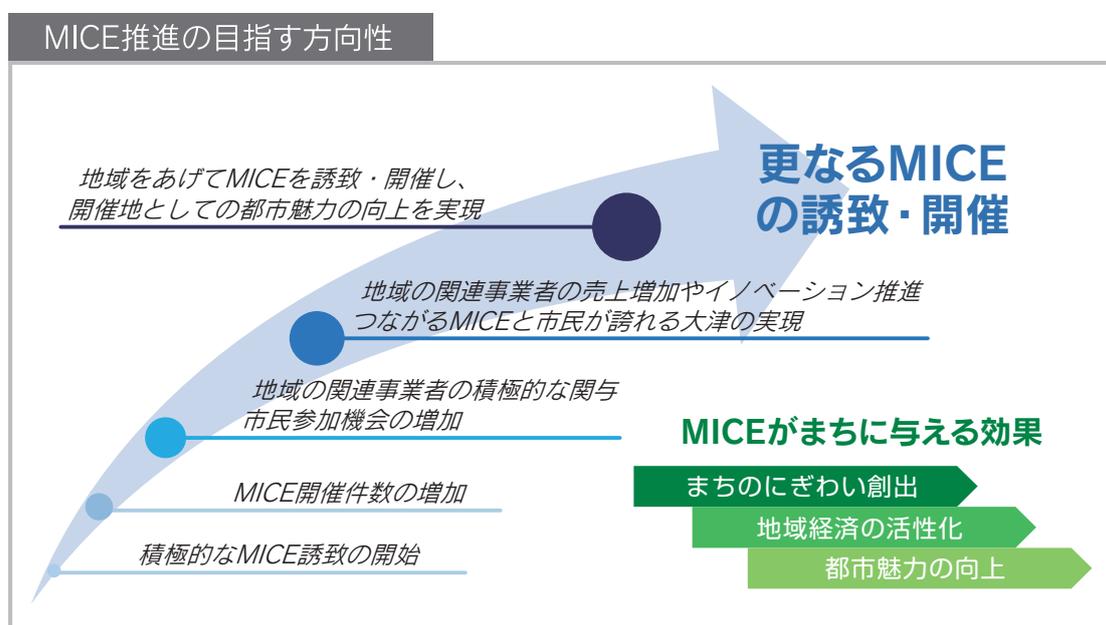
本市には、他都市に見られる公的なコンベンションセンターや国際会議場といった施設は存在しません。現状、MICE の開催においては、複数の公共施設を利用した開催や民間施設の利用に依存している状況です。新たな施設の整備には多額のコストが発生するため、現時点で整備の見通しはありません。そのため、本市において積極的に MICE を推進していくには、多くの関連事業者との連携による取組みが必要となります。

# 第3章 MICE 推進の方向性

## ① 大津が目指すまちと MICE の関係

MICE は開催都市に様々なプラスの効果をもたらします。しかし、単に開催されるだけでは効果が限定的であるため、どのようにその効果を継続させることができるかが重要となります。

MICE 推進の方向性やまちと MICE の関係性を整理し、MICE による効果の最大化を図り、イノベーションの創出や都市魅力を向上させることで、「夢があふれるまち大津」の実現に向けた大津ならではの MICE のカタチを目指します。



また、第3期観光計画において、本市の観光における課題を挙げていますが、それらの課題に対しても MICE は効果的な側面を持っており、本市の観光における課題を解決する一助になるという観点からも、MICE を積極的に推進していきます。

## 観光における課題解決への貢献

### ① 大津ならではの魅力が具体的に認知されていない

一般観光では来訪者が少ない地域資源においても、MICE では「ユニークベニュー」として活用することで、域外からの来訪者に対して、PR することができます。市内の隠れた魅力的なコンテンツを、大津ならではの「ユニークベニュー」として MICE で利活用することで、市内の観光コンテンツの充実、認知度の向上につながります。

### ② 市内で周遊されているスポット数が少ない

MICE では、エクスカージョンとして開催都市を巡るツアーを設定されることがあります。エクスカージョンは、プログラムの空き時間や滞在の前後の時間を利用して実施するものや、同伴者が会期中に楽しむことができるものなどがあります。主に MICE 参加者の一部がグループ単位で参加するため、大型バスなどを利用して市内を周遊します。

MICE のエクスカージョンの場も活用して、本市での人気の周遊コースを確立し、関連事業者へフィードバックされることで、新たな周遊コンテンツが造成され、市内周遊の向上につながります。

### ③ 再来訪者（リピーター）が少ない

MICE 参加者は基本的にビジネスを目的として来訪されます。会社の拠点や取引先があるという理由で何度も同じ場所を来訪される出張者とは異なり、MICE で初めてその地域に来訪されるケースも多く、開催都市に対して興味関心を持つ方が多くいます。また、時間的に余裕のある方も多く、地域の魅力に存分に触れる機会を持てることも、MICE 参加者の特徴の一つです。

このような特徴を持った MICE 参加者に地域の魅力を効果的にプロモーションし、本市の魅力を肌で感じていただくことで、リピーターの増加につながります。

### ④ 閑散期の宿泊客数が少ない

MICE は毎年の開催時期が決まっているものが多く、観光における閑散期となる時期に開催されるものも多くあります。MICE では多くの参加者が見込まれるため、閑散期に開催される MICE を誘致することで、閑散期における宿泊施設の利用拡大につながります。

## 2 大津ならではの MICE 誘致の方向性

MICE を積極的に誘致していくためには、「都市の魅力」が、その都市で「開催する理由」となるように、ストーリーづけすることが重要となります。また、地域内の関連事業者が、その方向性を共有し、同じ方向を向いて一体となって誘致に取り組む必要があります。

このことから、大津ならではの MICE 誘致を具体化していくために、本市における MICE 誘致の3つの「キーワード」を定めます。

### 大津市 MICE 誘致の「キーワード」

- 利便性の高い都市型レイクフロントリゾート MICE
- びわ湖が育むサステナブル MICE
- まち・自然・歴史を生かしたおもてなし MICE

### 利便性の高い都市型レイクフロントリゾート MICE

本市の強みの一つであるレイクフロントでありながら市街地に近く、MICE 機能を備えたリゾートホテルが立地しているという強みを生かし、「都市型レイクフロントリゾート」として、オンリーワンの MICE 開催地としてアピールしていきます。

また、京都や大阪といった大都市圏からのアクセスの利便性が高いことなども含めて PR し、利便性の高さという点に着目しながら、本市の知名度向上を図ります。

### びわ湖が育むサステナブル MICE

これまで本市がびわ湖の環境保全などを目的に実施してきた、環境やサステナビリティに関連した様々な取組みを生かし、サステナブルな開催地としてのイメージを構築し、SDGs を意識する主催者や、今後取組みを検討している主催者に対して本市の魅力を PR していきます。

関連事業者とも連携しながら、地域内の取組みを把握・整理し、地域全体の取組みとして積極的なプロモーションを行います。

### まち・自然・歴史を生かしたおもてなし MICE

本市の地域としての特徴である「まち・自然・歴史」の共生を生かし、地域資源を最大限活用しながら、多様性のあるおもてなしを提案していきます。

MICE の主催者や参加者が、本市での開催に満足していただけるよう、幅広い、多様な地域資源を取り入れた MICE を柔軟に提案しながら、MICE 誘致・開催を支援、サポートしていきます。

## 3 ターゲットとする MICE

MICE の分野はとても幅広く、様々なビジネスイベントで構成されています。MICE 誘致を戦略的かつ効果的に進めていくためには、本市の強みや特徴を踏まえて、ターゲットとする MICE を明確にしておくことが重要となります。

本戦略では、本市を取り巻く様々な要素を考慮し、以下に示す MICE を中心に誘致・開催を推進していきます。

### (1) 区分

MICE の中でも特に高い開催効果を持ち、本市が目指す MICE の方向性にも大きく貢献すると考えられる、国際会議や学会・大会などの「コンベンション (C)」を主たる誘致対象として、積極的に誘致を行います。

また、一人あたりの消費額が高く、高い経済波及効果を見込むことができるとともに、地域産業との親和性も高い「企業イベント (M、I)」についても、従たる誘致対象として、誘致の取組みを進めていきます。

### (2) 規模

本市では、びわ湖畔エリア一帯の公共施設、民間施設（ホテル）が、MICE 開催の中心的な場所（エリア）となります。他都市に比べて、エリアとしての収容能力が高くないため、中小規模の MICE に重点を置いた誘致を行います。その中で、本市の特徴としてスモールラグジュアリーな MICE 開催の環境（小規模な MICE に対する、丁寧なサポートと質の高いサービスによる付加価値を高めた開催環境）を提供することで、心に残るおもてなしの MICE 開催を目指した取組みを進めます。

また、大規模な MICE 開催においても、周辺エリアとの連携や調整により、開催に向けた積極的な提案を行っていきます。

### (3) 分野（テーマ）

本市の特徴との親和性を踏まえ、特に医学、自然科学及び理工学の分野（テーマ）で開催される MICE を積極的に誘致していきます。

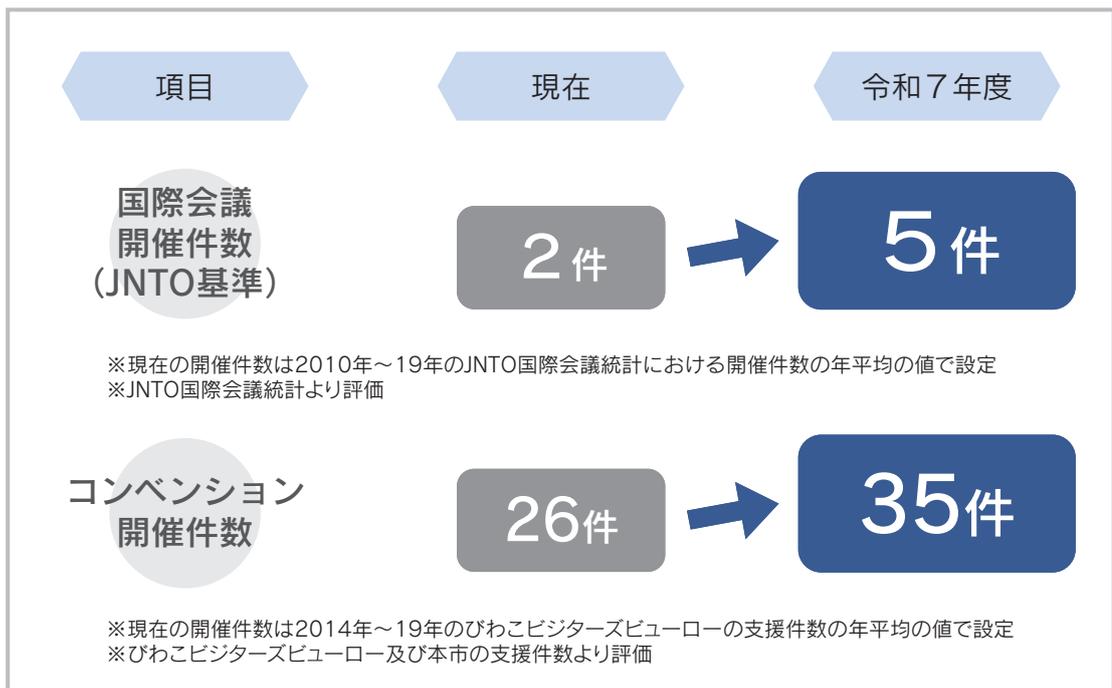
MICE 誘致においては、都市における開催のイメージが特に重要な要素となるため、特定の分野（テーマ）の開催を積み重ね、イメージを定着させることで、誘致競争を優位に進めていきます。

分野	ターゲットとする理由
<p><b>医学</b> (医療・福祉・健康)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 市内には滋賀医科大学をはじめとした医学系研究機関が立地しており、コンベンション主催者となるキーパーソンが域内に在籍しているため。</li> <li>● 本市は他都市に比べ、福祉・健康分野の産業規模が大きいため。</li> <li>● コンベンションの中でも特に高い経済効果を誇る分野であるため。</li> </ul>
<p><b>自然科学</b> (環境・水)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 琵琶湖という唯一無二の特徴を最大限に生かすことができる分野であるため。</li> <li>● 市民や立地企業も含めて環境や水への意識が高く、本市の都市イメージとの親和性が高いため。</li> <li>● 本市のサステナブルブランド確立のために有意な分野であるため。</li> </ul>
<p><b>理工学</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 理工学分野の研究・開発を行う企業や大学が地域に多く立地しており、これらの機関と積極的に連携することで、誘致の可能性が高まる分野であるため。</li> <li>● 地域の産業・大学の研究テーマと親和性の高い MICE を機動的に誘致することで、開催効果をより高めることができるため。</li> </ul>

## 4 MICE 戦略における目標

本市の MICE 戦略における数値目標（KPI）を以下のとおり設定し、目標の達成に向けて、戦略的に取組みを実施していきます。

### ■指標1 MICE 開催件数



### ■指標2 主催者満足度



## 5 大津市 MICE 推進の基本方針

本市が目指す方向性と目標（KPI）を達成するため、3つの基本方針を定め、それに沿った施策や取組みを推進していきます。

### 基本方針 1

#### 主 催者にえらばれる MICE 都市「大津」となるために

MICE 誘致・開催にあたっては、主催者にえらばれる開催地となることが求められます。都市型レイクフロントという立地環境や、環境先進都市としてのサステナブルイメージなどを生かし、他都市とは異なる「オンリーワン」の開催地であることを基軸としたプロモーション活動や開催地としての魅力向上のための施策を実施し、MICE 開催地としての大津の知名度向上に取り組めます。

### 基本方針 2

#### 関 連事業者と共に創り、磨き上げる MICE 都市「大津」となるために

本市は、まち・自然・歴史が共生した多様で魅力的な地域資源がありますが、観光や MICE で活用できていない地域資源も多くあり、それらは本市の隠された魅力といえます。それらの地域資源について、MICE 推進をきっかけとして掘り起こしを行い、「大津ならではの魅力」へと磨き上げ、関連事業者との連携を深めることで、地域全体に経済波及効果を浸透させながら、MICE を推進していきます。

### 基本方針 3

#### 人 がつながり、成長する MICE 都市「大津」となるために

MICE の推進は、にぎわいを創出し、イノベーションを生み出し、より魅力的な都市へと成長させます。MICE は人と人がつながる貴重な場であることから、MICE 推進により、世界各国・日本全国から集まる MICE 主催者や参加者と地域の人々が「つながる」仕組みをつくることで、MICE の効果を最大限取り込み、地域を活性化し、更なる魅力の向上につなげていきます。

また、地域の課題を解決する「大津発」の MICE の創出にも取り組めます。

SDGs とは、2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発目標」を目指す国際的な目標です。本市でも、市民、関連事業者等と連携しながら、SDGs の達成を意識して各施策を推進していきます。

#### 本戦略に関連する SDGs の目標





大津市街地



琵琶湖疏水



大津祭

# 第4章 具体的な施策・取組み

## ① 基本方針 1 主催者にえられる MICE 都市「大津」となるために

本市が MICE 主催者からえられる開催地となるために、誘致プロモーションの強化や主催者支援の充実に取り組みます。また、総合的な主催者の満足度を高めるため、MICE への参加者の利便性向上につながる取組みなども実施します。

### 施策 1 問い合わせ窓口の整備

主催者が本市での開催を検討する際に、様々なサポートを受けることができる問い合わせの窓口を整備し、主催者の利便性を向上させます。

MICE の主催者は、複数の会場や設営事業者、飲食提供事業者、会場間移動のための交通事業者、行政機関など、様々なステークホルダーとの調整が必要となるため、大きな負担となります。その負担を軽減させることを目的に、本市で開催する MICE の窓口を整備し、市内のステークホルダーや地域資源を効果的に連携させ、効率的な提案につなげます。

#### 取組みの例

- 会場の調整や会場間輸送などワンストップで調整を行う窓口の整備の検討
- びわこビジターズビューローと本市の助成金制度における連携の検討

### 施策 2 誘致プロモーションの強化

#### ■ MICE 誘致の促進

本市での開催を検討される MICE 主催者を増加させるため、積極的な誘致・プロモーション活動を行います。政府系会議及び国内外学会などに対する誘致活動をはじめ、国や JNTO などが行うプロモーションとの連携や民間事業者のノウハウの活用などを行うことで、より効果的な MICE 誘致のプロモーションを進めます。

#### 取組みの例

- 主催者等への直接訪問による誘致活動や国内外の MICE 関連の展示会への出展
- 国や JNTO との連携による積極的なプロモーション事業への参画
- 民間事業者と連携した誘致促進事業や主催者等向けモニターツアーの実施

## ■ MICE 誘致を行うための情報収集

MICE 誘致を効率的に行うためには、最新の情報収集は欠かすことができません。国内外の様々な関係団体とのリレーションを構築し、積極的な情報収集に努めていくとともに、入手した情報と域内の情報を一元的に管理し、効果的かつ効率的な誘致プロモーション活動を行います。

### 取組みの例

- ICCA などの関連団体への加盟検討と国の関連機関からの情報収集の強化
- JCCB や都市間連携協議体への参画の検討
- 地域内の MICE 開催情報の収集と誘致情報の一元管理

## 施策 3 主催者支援の充実

### ■ 助成制度の拡充

本市での開催を検討される MICE 主催者を増加させるため、開催助成金をより効果的な内容とするための見直しを行います。また、開催を検討する際の本市への視察における支援やノベルティの提供など、準備段階における助成制度の創設を検討します。

### 取組みの例

- 開催助成金制度の見直し
- 主催者における本市視察への支援の検討
- MICE 開催におけるサステナブルな取組みに対する支援の検討
- 大津ならではのノベルティの提供

### ■ サポートの充実

国際会議を中心とした MICE 誘致においては、ローカルキーパーソンが誘致に対して積極的になることが重要となります。そのため、ローカルキーパーソンの負担を軽減する様々なサポートを行うことで、本市への MICE 誘致につなげていきます。

### 取組みの例

- ビッドペーパー（誘致提案書）の作成支援や素材提供、各種調整などのサポート
- ローカルキーパーソンに対する地域一体となった誘致サポートのあり方の検討

## 施策 4 参加者の利便性向上

MICE におけるハイブリッド開催が普及したことから、今後は実地での参加者を増やす取組みを行うことも重要となります。開催地としての魅力を向上させることに加えて、参加者が無理なく MICE に参加できるよう、利便性の向上につながる取組みを行います。

また、参加者の満足度を高めることにより、主催者の満足度も高め、本市の MICE 誘致の強化にもつなげていきます。

### 取組みの例

- 二次交通の課題改善につながる支援の検討
- 参加者向けの宿泊施設情報の提供
- 参加者向けの飲食店等マップの作成

## 施策 5 市内情報の積極的な発信

市内の MICE 情報を的確に MICE 主催者に届けるため、情報発信を積極的に行うことが重要となります。MICE はあくまでも「ビジネスイベント」であることから、観光情報ではなく、主催者にとって有意義な情報（その都市で開催する理由（メリット）、開催環境及び支援メニュー等）を迅速に発信するための取組みを進めます。

### 取組みの例

- MICE 推進に関する専用 Web サイトの構築
- MICE に特化したプロモーションツール（各種パンフレット、動画など）の作成
- 誘致における地域関連事業者の情報提供

## 施策 6 SDGs に関する取組みの強化

世界的にも様々な活動において持続可能な取組みが求められる中、多くの人が集まることにより成り立つ MICE においても、近年、SDGs は注目されるキーワードとなっています。

主催者として SDGs を意識した取組みを取り入れるケースや、開催地として持続可能な取組みをどの程度実施しているかを評価する主催者も増えています。

びわ湖畔に位置する大津市は、SDGs に対する取組みが始まる以前から環境意識が高く、持続可能な取組みを積極的に行ってきた都市の一つです。MICE 推進においてもその特徴を生かし、SDGs への取組みなどを推進することで、サステナブルな MICE ブランドの確立を目指します。

### 取組みの例

- MICE 開催時に利用できる SDGs に則したプログラムの提供
- MICE 推進における SDGs への取組みのプロモーションツール作成



ハイブリッド開催の風景



びわ湖ホール



浮御堂 (満月寺)

## ② 基本方針2 関連事業者と共に創り、磨き上げる MICE 都市「大津」となるために

MICE の誘致にあたっては、開催地の環境を整えることが大きなポイントとなります。市内の関連事業者がより積極的に MICE に関与し、「点から線、線から面」へとネットワークを広げることで MICE 開催に適した環境を共に創り、磨き上げていきます。

### 施策 1 関連事業者との効果的な連携

MICE 誘致においては、状況に応じて、一施設や一事業者、一自治体という枠を超えて効果的に誘致していく必要があるため、様々な関連事業者等との連携を推進していきます。また、地域として誘致の機会を逃さないためにも、地域内で積極的に情報交換を行い、機会損失を防ぐことも重要となります。

#### 取組みの例

- MICE 担当学会議の拡充と産官学が一体となった連携のあり方を検討
- 施設や事業者など個々の枠を超えた連携による誘致・開催の実現

### 施策 2 関連事業者の取組みへの支援

MICE の開催環境を向上させるためには、関連事業者による「投資」を促進していくことが重要となります。

また、サステナブル MICE を浸透させるために、関連事業者における持続可能な取組みを推進していきます。

#### 取組みの例

- 受入環境充実に資するインフラ整備に対する補助金等の情報提供
- MICE 開催情報の共有による積極的な関与の促進
- MICE におけるサステナブルな取組みへの支援の検討

### 施策 3

### 関連事業者の拡大と MICE 人材の育成

本市の MICE 開催地としての魅力を向上させるため、地域資源を活用した新たなエクスカーション等の発掘を行うとともに、MICE を受け入れるにあたってハードルとなる点を行政として支援することで、事業者の積極的な MICE への関与を促し、地域の魅力を作り上げていきます。

また、MICE 誘致や開催に関して、地域で幅広い知識を有する人材を育成し、質の高いおもてなしによる MICE 開催を実現していきます。

#### 取組みの例

- 地域資源を活用したエクスカーションなどの発掘
- ユニークベニューなどへの MICE 受入支援とプロモーションツールの作成
- スモールラグジュアリーに則したコンテンツの開発
- 民間ノウハウなどを活用した MICE 関連人材の育成



比叡山延暦寺



三井寺（園城寺）



石山寺

### ③ 基本方針3 人がつながり、成長する MICE 都市「大津」となるために

MICE を誘致し、MICE が開催されて終わりではなく、MICE の推進を通して地域への効果を最大化し、にぎわいのあるまちづくりにつなげることが重要となります。

MICE は多くの人が集まる場であり、人と人のつながりを生むことが、MICE の価値の一つです。本市は地域と MICE 主催者や参加者がつながる MICE を目指し、取組みを進めていきます。

また、MICE には地域課題を解決し、都市を成長させる効果もあることから、これまでに開催された「世界湖沼会議」のように、本市の課題を解決することができるような新たな MICE を創出することも検討していきます。

#### 施策 1 地域への MICE 開催効果の享受

##### ■市民の MICE への積極的なつながりの促進

MICE は様々なテーマで行われ、市民生活に深く関わるものも多くあります。それぞれの分野の第一人者による講演などは、日常では聴講することができない貴重な内容のものもあります。

また、国際会議であれば、地域の若者などにとっては、海外とのつながりを持つことができる貴重な機会です。そのような MICE とのつながりの機会を積極的に作り、市民も MICE に参加し、新たな知識や経験を得ることができる機会を創出していきます。

##### 取組みの例

- 地域の学生なども含めた市民の積極的な MICE への参加機会の確保
- MICE サポートボランティアネットワークの検討
- 主催者が市民公開講座などの市民参加の場を積極的に開催するための支援

##### ■地元企業や研究者が積極的に MICE につながることでできる環境整備

MICE の開催においては、開催地域にその分野の第一人者が訪れ、新たなつながりを構築できる機会であり、地域におけるビジネス・イノベーションを促進することができます。そのため、MICE に日常的に関わる関連事業者以外にも、地元の企業や研究者も積極的につながることができる体制の構築を進めていきます。

##### 取組みの例

- 商工会議所などと連携した従来の関連事業者以外とのネットワーク構築
- 本市で開催される MICE への地元企業の出展支援
- 市内立地大学をはじめとした各種団体との協定などを生かした取組みの促進

## 施策 2

## 課題解決につながる MICE の創出

### ■ 新たな MICE の創出

地域に根ざして生まれた MICE を大きく育てていく取組みや、本市発の国際会議の検討を行うなど、本市の地域課題を解決し、本市のプレゼンスの向上に貢献する MICE の創出にも取り組んでいきます。

#### 取組みの例

- 地域の人々が地域で行う地域のためのスモール MICE への開催支援
- 本市の魅力を生かした分野の MICE 立ち上げを検討

### ■ 地域を超えた MICE の連携

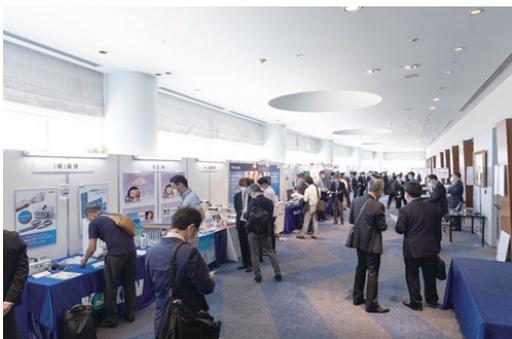
国際会議の誘致など、MICE では一都市だけでの取組みでは誘致・開催の実現が難しいものも数多くあるため、近隣自治体との連携を積極的に行っていきます。本市だけでは誘致・開催が困難な MICE についても、共同誘致を行うことにより、新たな獲得を目指します。

#### 取組みの例

- 近隣自治体との連携強化



遊覧船（ミシガン）



学会における企業出展の風景



びわこ花噴水

# 第5章 戦略の推進

## 1 大津市の MICE 推進体制

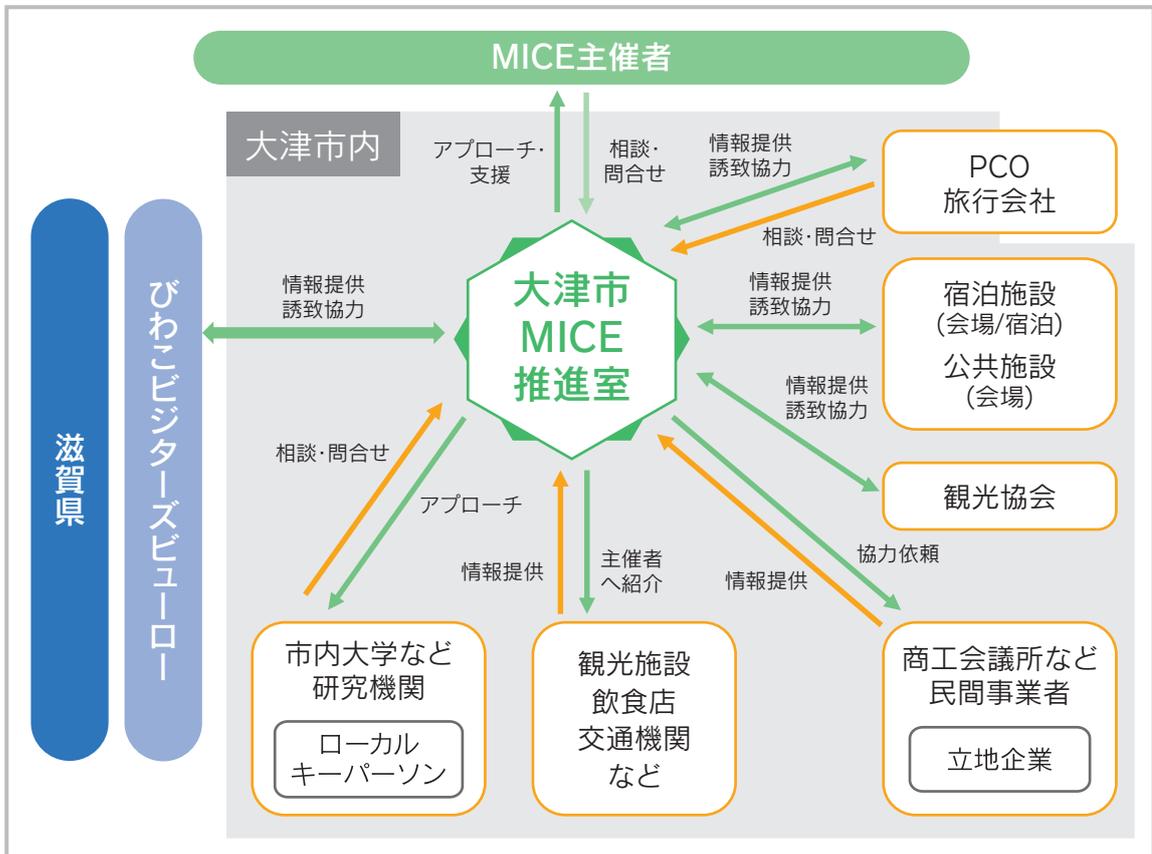
MICE を積極的に誘致・開催していくために、市内のステークホルダーや行政が担う役割を明確にするとともに、地域で一丸となった MICE 推進体制を構築します。

### (1) MICE 推進室の設置

本市では、MICE を推進することで地域経済を活性化させることを目的に、令和2年度に MICE 推進室を設置しました。引き続き、MICE 推進室では、MICE の開催支援や様々なエクスクーション等を提案することで、大津ならではのおもてなしによる誘致活動を進めていきます。

### (2) 市内ステークホルダーとの協力体制

本市では MICE 推進室を中心として、下図のような体制を市内ステークホルダーと構築し、MICE の誘致・開催へ向けた取組みを行っていきます。



### (3) 進捗管理

---

MICE の誘致・開催は、長期的な視点での取組みが必要となるため、本市の MICE 推進においては、短期間での評価は困難であると考えています。

そのため、本戦略の進捗管理については、主催者や関連事業者からのご意見（アンケート等）などにより、各施策の取組み状況や課題を把握して進捗度を確認することで、本戦略の着実な推進と目標への達成につなげていきます。

## 用語集

### ハイブリッド開催

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、MICE のオンライン開催が積極的に行われたのちに、実地開催とオンライン開催を「組み合わせ（ハイブリッド）」した開催形態として登場した。オンラインでの参加と実地での参加を、参加者自身が選択することができる開催方法。

### 国際会議協会（ICCA）

世界の約100の国と地域にある1,100を超える企業と組織で構成される、国際会議業界最大のグローバル団体。国際会議に関するデータベースの構築や人材育成、ネットワーキングの機会の提供などを行う。日本国内でも JNTO をはじめ、官民間問わず多くの団体・企業が加盟している。

### 日本政府観光局（JNTO）

正式名称は独立行政法人国際観光振興機構。通称、日本政府観光局（Japan National Tourism Organization、JNTO）。1964年に設立された、訪日外国人旅行者の誘致に取り組んできた公的な専門機関。自治体や国内のローカルキーパーソンと連携し、MICE の誘致・プロモーション活動も行っている。国内の国際会議を対象とする「JNTO 国際会議統計」を発行している。

### 日本コンGRESS・コンベンション・ビューロー（JCCB）

1995年に国のコンベンションをより一層振興させることを目的に設立された組織（2009年に一般社団法人化）。全国のコンベンションビューローを中心に、119の団体・企業が会員となっている。JNTO とともに、国内最大規模の MICE 商談イベントである「国際 MICE エキスポ（IME）」を主催している。

### MICE アンバサダー制度

2013年より、国際会議等の開催地としての日本のプレゼンス向上のため、専門分野において影響力のある人材をアンバサダーとして JNTO が認定している制度。2021年11月現在で73名が認定されている。アンバサダーは、MICE 開催国としての日本の広報活動や国際会議の誘致活動を行い、JNTO がそれを支援している。

### グローバル MICE 都市

海外競合国・都市との厳しい誘致競争に対応し、日本の MICE 誘致競争を牽引することができる実力ある都市を育成するために選定された都市。国として様々な支援を行うとともに、各地域の関係者の連携を強化し、都市の自律的な取組みを促している。札幌市、仙台市、東京都、千葉県 千葉市、横浜市、名古屋市 愛知県、大阪府 大阪市、神戸市、京都市、広島市、福岡市、北九州市の12都市が選定されている。近年、国はこれらに次ぐ都市の育成にも力を入れている。

<b>コンベンションビューロー</b>	<p>国内外からの MICE 誘致を担う公的組織。自治体を中心となって組成するが、地域の MICE 関連事業者なども会員として参画することが多く、官民が連携し地域一体となって MICE 誘致を行うための重要な組織である。主催者にとっては、開催都市の窓口となる存在。滋賀県においては、公益社団法人びわこビジターズビューローがその役割を担っている。</p>
<b>(MICE に関連した) 国際展示会</b>	<p>世界各地で自治体や関連事業者が出展し、主催者との商談を行う国際的な展示会。代表的なものとしては、IMEX（開催地：フランクフルト）、IMEX America（開催地：ラスベガス）、IBTM World（開催地：バルセロナ）などがある。国内では JCCB と JNTO が主催する IME（国際 MICE エキスポ）が開催されている。</p>
<b>ユニークベニュー</b>	<p>歴史的建造物や文化施設など、特別感や地域性を演出することができる会場のこと。印象に残る MICE を演出するために有効な手段の一つであり、近年、積極的な活用が求められている。</p>
<b>エクスカージョン</b>	<p>MICE のプログラムの一部として、会議参加者や同伴者のために実施される、開催地域周辺を巡る小旅行や開催テーマに関連した視察旅行。</p>
<b>サステナブル</b>	<p>「持続可能な」という意味で使われ、近年は「持続可能な開発」として、社会や地域が持続可能な形で発展していくために必要な取組みなどを指す場合に使われる。世界が持続可能な形で発展していくための指針（目標）としてまとめられたものが、「SDGs」である。</p>
<b>ローカルキーパーソン</b>	<p>国際会議など統括団体がある場合において、各開催回の主催者（毎回変わることが多い）となる、地域の研究者や組織などのこと。このローカルキーパーソンの所在地が開催地となることが多く、ローカルキーパーソンが統括団体に対して立候補することが、MICE（特にコンベンション）誘致の第一歩となるため、地域にとって重要な存在となる。</p>
<b>PCO (Professional Congress Organizer)</b>	<p>会議運営を専門とする会社。国際会議などをはじめとした、あらゆる種類の会議の運営業務全般を取り扱う専門的能力を持っている。</p>







【発行】大津市（産業観光部観光振興課MICE推進室）